あるある研修　「Ｋちゃんの初めての集団生活」

■ 主な内容

・４月入園。初めての集団生活の始まり。母は働いており、入園までは祖母と日中過ごしていた。入園後も、祖母が保育可能な為、欠席も多い。
・口数、表情は乏しいが、担任には割と早く慣れ、働きかけにも応答する。自己主張は苦手であり、自らの発信は少ない。友だちに対して距離や壁を作っている。
・困り感を伝えられず、言い出せないことや集団への声掛けで行動に移せない事も多く、個別な対応を要する場面が多い。
・自然と世話好きな子たちが、声をかけ、手伝ってくれる様になり、友だちとの関わりも増えた。しかし、プライドから拒否することも。
・初めての事には抵抗を感じやすく拒否的。感情的になり保育者を叩く等の行動も見られ、頑なさも目立つ。そんな中、運動会の練習が始まりＫちゃんは？

■ 幼児と保育者のようす

運動会の練習を始めようとすると・・・。

Ｋ　児：「やりたくない」と無表情で拒否。
保育者：「やってみたら楽しいと思うんだけどな～」
Ｋ　児：「だってやりたくないんだもん！」と感情的になり保育者を叩く。
保育者：「じゃあ今日はどんな事をするのか見ながら、みんなの応援しててくれる？
次の練習の時はＫちゃんも一緒にしようね」
（Ｋちゃん頷き、その日の練習は無表情で見ていた）

翌日の練習・・・

保育者：「今日はＫちゃんも一緒に練習頑張ろうね。先生が傍について教えて
あげるから大丈夫だよ」
（Ｋちゃん不安そうだが頷き練習に参加。練習が始まると笑顔も出て
楽しそうに行う姿が。）

練習後・・・

保育者：「練習どうだった？すごく上手だったよ！頑張ったね！」
Ｋ　児：「楽しかった」と笑顔で答える。
保育者：「じゃあ次からも練習頑張れそう？」
Ｋ　児：「うん。保育園楽しいから、明日も休まないでずっと保育園来るわ」
保育者：「え一！本当？Ｋちゃんが休まず来てくれると先生やお友だちも
嬉しいよ！本番に向けて練習頑張ろうね！」
Ｋ　児：「うん！」と明るく答える。

その日以降、意欲的に練習に参加し、自信がついた様で、その他の生活面でも
良い変化や成長が見られる様になった。

ワ ー ク シ ー ト

■ 協議してみましょう

○　集団での活動を拒否するお子さんに対し、どの様な関わりやことばがけをしていますか？
（個人思考）
（グループ・全体協議）
○　Ｋちゃんの進学へ向けて、不安な点や必要な支援はどのような事でしょうか？
（個人思考）
（グループ・全体協議）

「Kちゃんの初めての集団生活」

■ この園での取組

・初めての集団生活で、不安や負担はとても大きなものである事を理解し、無理なく園生活に慣れていけるよう配慮している。

・口数が少なく、表情も乏しい。自己表現やコミュニケーションが苦手。
特に友達に対しては、関わりを避ける傾向がある為、保育者が仲立ちとなって関わりを増やす機会をつくっている。

・困っていても自分からは声を出せず、誰かに気付いてもらえるまで待っている為、都度、どの様に保育者に伝えていけば良いのか教え、自分から発する事が出来た時は、十分に褒めて自信に繋がる様に配慮している。

・遊べずに、座り込んでしまう為、保育者が一緒に遊ぶ事で、玩具の使い方や楽しさを感じられる様にしている。
Ｋちゃんから話題を引き出し、会話でのコミュニケーションが楽しめるようにしている。家では何をして遊んでいるのか尋ねると「スマホ」と答える。

・休みがちになりやすい為、特に大きな行事等の前は、練習にも影響が出ることから、保護者に連絡を入れ、無理のない範囲で登園を呼びかけている。

・登園は祖父、降園は母が多い。子育てのほとんどを祖母が担っている。
母子の関係性が見えにくい印象を受ける家庭である。
持ち物の忘れ物や毎日の健康表の記載忘れも多い為、手紙等で個別に伝えたりしても、改善がみられない事が多い。

・来年４月に進学を控えている事もあり、園での様子を伝えて、気になる点や、心配な面について母と話をする。
母はあまり心配等を感じていない様だが、母子通園センターの、10 月の巡回訪問の際にみてもらう事を勧め、母の了承を得る。

■ ワンポイント

・Ｋちゃんのコミュニケーションの苦手さ、特に友達との関わりを避ける傾向の要因として考えられるものは？
頑なさが目立ち、集団への声掛けに対して行動に移せない事があるが、発達障害等の可能性も考えられるのだろうか？

・拒否的な言動があった場合はどの様なはたらきかけを行っていけば良いのか考えてみましょう。

あるある研修　「Ａちゃんと鬼の魔法」

■ 主な内容

・気温も暖かくなり、外遊びも始まる６月。子どもたちは新しいクラスにも慣れ、楽しく過ごしている。
・アニメが大好きで、最近は鬼に興味津々のＡちゃん
・この日は天気がよく、登園時から外遊びを楽しみにしていたＡちゃん。急いで着替えと排泄を終わらせ外遊びに向かっていったが、ふと保育者が教室をのぞくと、Ａちゃんのロッカーの前には脱ぎ捨てたジャンパーと口の開いたカバンが無造作に置いたままであった。
・好奇心旺盛で気になることがあると、ついやるべきことを疎かにしてしまいがちな部分がＡちゃんの課題なのだが、実は、昨日も「自分の物をきちんとロッカーにしまってから行こうね」と伝えたばかりであった。
・保育者は、床に投げ出されたＡちゃんのカバンからコップが転がっているのを見付け…。

■ 幼児と保育者のようす

保育者：「トイレと手洗い、うがいをするのでコップを持ってきてください。」
Ａ　児：「あれ、ぼくのコップがない。先生、ぼくのコップ知らない？」
保育者：「え？Ａちゃんのコップ見てないなぁ。お外に行く前はあったの？」
Ａ　児：「あれ、どうだったかなぁ？」
保育者：「ほんとうだ、ないねぇ。Ａちゃん、困ったね、これじゃあうがいもできないし、給食を食べるときにお茶を入れることもできなくなっちゃうね。」
（予期せぬ出来事に困惑するＡちゃん。見つからず、ついに泣き出してしまう。）

Ａ　児：「やだー、えーん」
保育者：「そうだよね。大事なものがなくなるのってとても悲しいし、困ってしまうよね。でもＡちゃん、他のみんなのはあるよ。なんでＡちゃんのだけないのかな。」
Ａ　児：「……。（泣きやみ、少し考えるＡちゃん）」
保育者：「先生、昨日、Ａちゃんに『ロッカーの整理整頓してからお外に行こうね』ってお話ししたものね。だから、今日はきれいなロッカーにしてからお外に行ったんだよね。」
（はっとした表情をしたあと、うつむくＡちゃん）

保育者：「もしかしてＡちゃん、かばんやジャンパーをロッカーにしまわなかったの？」
Ａ　児：「しまわなかったよ。うわーん。」
保育者：「そうか、正直に言えてえらかったね。急いでいたのかな。」
Ａ　児：「早く、お外に行きたかったの。」
保育者：「早く外にいってみんなと遊びたいよね。でも、こうやって、置いたままだとなくなっちゃうね。今度から、どうしようか？」
Ａ　児：「自分のかばんをきれいにしてから遊びに行く」（片付けながら）
保育者：「わぁすごい。Ａちゃん自分で気づけたね。
（Ａちゃんと一緒にコップを探す保育者）

園　長：「さっき急に空が暗くなって、鬼が来て、何かを置いていったのよ。」
Ａ　児：「ぼくのコップだ！何か紙が入っているよ。」
保育者：「Ａちゃん、ロッカーをきれいにできてよかったね。鬼より」
（Ａちゃんはコップを大切にしまい、整理整頓を気に掛けるようになっていった）

ワ ー ク シ ー ト

■ 協議してみましょう

○　今回の指導の中で、子ども自身の気付きにつながるように保育者が行った工夫は、どのようなものがあるでしょうか。
（個人思考）
（グループ・全体協議）
○　今後もし、またＡちゃんが整理整頓を怠ってしまっていた場合には、どのような指導が適切でしょうか。
（個人思考）
（グループ・全体協議）

「Aちゃんと鬼の魔法」

■ この園での取組

○　保育者は、Ａちゃんが整理整頓の大切さに気付き、今後自ら整理整頓ができることを目標としているため、『その場ですぐに伝えてロッカーをきれいにさせる』のではなく、『あえてコップを預かり、なくなったとき、どのように困るかを身をもって感じられるような展開』を行った。また、保育者が伝えるだけでなく、鬼という架空の登場人物を使って、本人の心に残る体験を通すことも、工夫の一つとした。

○　保育者は、昨日の自分の指導を振り返り、「なぜ子どもに指導したことが身に付いていないのか」を分析することで問題点に気付き、次の手立てへと移行することができた。

○　指導の際には、一緒に「困ったね」「早く遊びたかったんだよね」とその子の気持ちに寄り添い共感する中で、子ども自身が冷静に自分の問題点を振り返ることのできるような話し方を心がけている。

○　クラスの子ども達それぞれの課題を捉え、今後の指導の仕方を他の職員とも話し合っていたため、事前の簡単な説明のみで「Ａちゃんのコップが鬼によって消えてしまった」という設定にすることができた。

○　今回の出来事は、見ていた同じクラスの子どもにとっても他人事ではなく、「自分も整理整頓していないと物がなくなるかもしれない」ということに気付いている様子があった。その後は、周りの子が整理整頓に気を付けるだけでなく、「ロッカーにジャンパーを掛けるんだよ」と子ども同士で声を掛け合う姿が見られるようになった。

○　子どもは、連続性をもった繰り返しの指導の中で少しずつ成長していくものである。Ａちゃんは今後も、魅力的な遊びを前にすると整理整頓を忘れてしまう可能性がある。しかし、次からは「また、Ａちゃんの大切なものがなくなってしまうかもしれない」と伝えるだけで、今回のことを思い出し、片付けなくてはならないと気付けると予想する。

■ ワンポイント

□　例えば、どのような指導であっても「廊下は走らない」などとやってはいけないことだけを伝えるのではなく、「友達とぶつかってしまうから歩こうね」など、なぜ走ってはいけないのかの根拠も踏まえて伝えられるように意識しましょう。

□　子どもの現時点での育ちをしっかりと捉え、どの職員も同じようにその子の課題に対してアプローチができるよう、職員全体の話し合いを定期的に行い、チームティーチングを意識しましょう。

□　子ども自身が冷静に自分の問題点を理解するためには、どのような話の仕方が有効なのかを他の職員とも話し合ってみましょう。

□　その子のできていない部分だけを見がちになっていないでしょうか？指導をする際には、よくない部分を伝えるとともに、その子のよい部分や頑張りも認めて伝えるよう意識してみましょう。

あるある研修　「朝のプレイルーム」

■ 主な内容

・朝は０歳から５歳までの受け入れをしている。
・０歳はすぐ揃うので保育室へ行くが、１・２歳は９時半のおやつの時に保育室へ行く。
・保育室へ戻る時に片付けはするが、大きいクラスと使っていたものはそのまま残していく。
・コーナー分けはしているが片付けをする時には色んなものが出ていて色んなものが混ざって片付けてしまう。
・プレイルームで午睡をするので片付けは必要。

■ 幼児と保育者のようす

保育者：「戸外や保育室に戻るから片付けるよ」

幼　児：「はーい」

保育者：「ここでお絵描きしていたのは、Ａちゃんだよね？
片付いてないよ」

幼　児：「私はちゃんと片付けたよ。Ｂちゃんも使ってた。」

保育者：「Ａちゃん！ここのお片付け終わってないみたい！」

（呼ばれたＡ児が戻ってきて片付ける）

（他の場所）

保育者：「ぬいぐるみとお布団とごちゃごちゃだ。」

幼　児：「私はここに入れたのにＣちゃんがそこに入れた。」

保育者：「そっか、じゃあ一緒に直してくれる？」

幼　児：「いいよー。」

そんなやりとりをして最後には片付いて解散している。

ワ ー ク シ ー ト

■ 協議してみましょう

○　どんどん遊びを続けたいが、終わるときには、どう区切りをつけることがよいか。
（個人思考）
（グループ・全体協議）
○　本当にお片付けまですることは必要だと思うか。
（個人思考）
（グループ・全体協議）

「朝のプレイルーム」

■ この園での取組

〇人数やその日の子ども達の様子もあるが、コーナーを作り、子ども達が好きな遊びを進んで見付け、遊ぶことが出来るようにしている。

〇好きな遊びに時間をかけて出来る事で、集中して遊び込み満足感をもてるように心がけている。

〇やりたいことをするには周りの状況はどうなのかと意識をもって見ることができるように声掛けをしている。

〇他の遊びをする時には使った物をひとつひとつ片付けるよう声掛けする。

〇仕分けが分かりづらい玩具は、箱に写真を貼り、しまう場所を明確にしている。

■ ワンポイント

□カプラなどの積み木や作成途中の物を片付けないで保存しておける空間づくり。

□遊びの道具が散乱してしまう前に声をかけ片付けの目安が立てられるようにする。

あるある研修　「あそびたいけど…」

■ 主な内容

（入園当初から集団に入れず周りの様子を見ているＫくん）
・言葉数が少なく、自分の気持ちを言葉で伝えるのが苦手な様子
・周りの子とどのように関わってよいか分からない様子
・みんなと一緒に集団遊びに入ることを嫌がる。
・母親とのやりとりはできる。
・上の兄弟も在園していて、自由遊びの際は、兄弟でじゃれて遊ぶ様子が見られる。
・２学期に入ってから、集団遊びに入れる日が増えてきた。

■ 幼児と保育者のようす

（１学期の様子　朝の外遊び）
（園庭で好きな遊びをする時間、朝の身支度を済ませた子どもから園庭に出てくるが、Ｋくんは外に行かず、廊下を行ったり来たりしている。）
保育者：「一緒に外に行って遊ぼうよ。何して遊ぼうか？」
Ｋ　児：「…。」
（話しかけると保育者を見るが、言葉は出ず、離れて行ってしまう。Ｋくんの手を取り、外へ誘おうとすると拒む。数人の保育者がＫくんに声を掛けるが、同じ反応になる。）

（クラスでリズム遊び　ホールでリズム遊びをするが、Ｋくんは周りの様子を見ている。）
保育者：「Ｋくん。みんなと一緒にリズム遊びをしようよ」
Ｋ　児：首を横に振って拒む。
保育者：「それじゃ、みんなのリズム遊びを見るかい？」
Ｋ　児：「…。」じっと保育者を見る。

（２学期の様子　クラスでわらべうた遊び　ホールで「あぶくたった」）
保育者：「Ｋくん、一回だけやってみようよ。一回だけやったら、おしまいにしよう。」
Ｋ　児：無言で頷く
（一回だけ保育者と一緒に参加した後「できたね」と保育者からＫくんに声をかけた。その後は、Ｋくんはホールの壁側に座り、周りの様子を見ていた。）

ワ ー ク シ ー ト

■ 協議してみましょう

○　自園では、このようなお子さんにどのような関わりや言葉掛けをしていますか？
（個人思考）
（グループ・全体協議）
○　自分の気持ちを伝えられないお子さんに対し、どのような配慮ができると考えられますか。
（個人思考）
（グループ・全体協議）

「あそびたいけど…」

■ この園での取組

○　Ｋくんの気持ちを考える。
・園の流れは理解している様子
・普段、１人でいることが多く、自分から積極的に関わろうとはしないが、周りからの関わりを待っている様子が見られる。
・Ｋくんの好きな遊びは何だろう。遊び方が分からないのかもしれない。
・上の兄弟と一緒にいるとき、嬉しそうだ。でも、上の兄弟は同年代の子と遊びたいため、離れていってしまう。
・上の兄弟とじゃれ遊びをする。追いかけて捕まえる。相手の体をたたいて振り向かせて喜ぶ。など、言葉でのやりとりはほとんど見られない。時々、手加減ができず兄弟げんかになることもある。

○　担任との信頼関係を深める。
・やりとりがスムーズになるように、Ｋくんとの関わりを増やす。
・Ｋくんの気持ちを想像し、言葉で代弁して意思を確認する。
・Ｋくんの不安感に寄り添いながら、一緒に活動に取り組む。
・Ｋくんができたことを一緒に喜ぶ。
・今まで出来ていることに対しても、時折「すごいね」など認める。
・他の子ども達にＫくんの行動を理解してもらえるよう、担任がＫくんの気持ちを代弁して伝える。

○　職員間でＫくんの様子を伝え合う。
・担任以外の職員がＫくんに関わったときの様子、やりとりを職員間で報告し合い、共有している。

○　保護者へＫくんの様子を伝える
・保護者は周りの子に手が出てしまうのではないかと心配していた。
・保護者が行事等で来園した際や送迎の際など、担任からＫくんの園での様子を伝えている。特にＫくんの成長が見られた時に伝えている。

■ ワンポイント

□　Ｋくんが入園して半年が経った。様々な活動や園生活を通して、本人なりに自信がついてきたのか、集団遊びに参加できる日も少しずつ増えてきた。
□　Ｋくんの気持ちを保育者が代弁したり、Ｋくんと一緒に保育者が相手に言葉で気持ちを伝えたりすることで、周りとの関わりがスムーズになってきたと感じている。
□　Ｋくんの好きな遊びから、保育者や友達との関わりを増やしていけたらと考えている。Ｋくんは「プラレールやトミカ」が好きと保護者から伺った。Ｋくんの好きな遊びを通して、周りの子との関わりを増やしていきたい。

あるある研修　「Aちゃんのかくれんぼ」

■ 主な内容

・とても暑かった８月
・４歳児クラスの元気なＡちゃん
・いつものように友達と遊び、かくれんぼが始まった。
・まがったことが許せず、突然怒り、泣き出したＡちゃん
・気持ちが落ち着く様子もなく保育者が声を掛ける。
・その後、Ａちゃんが楽しく遊ぶことが出来た理由とは？

■ 幼児と保育者のようす

（ホールで元気に遊んでいたＡちゃん「Ａ児」）

Ｂ　児：かくれんぼしよう！

Ｃ　児：もういいかい？

Ｄ　児：もういいよ！

Ａ　児：まだまだぁ（怒りだし、泣き始める）

保育者：Ａちゃんどうしたの？

Ａ　児：まだ隠れていないのに探しに来た。鬼も嫌だ。

保育者：一緒に鬼やろうか？
（それでも納得がいかず、泣いているＡちゃん）

保育者：みんなに隠れてから探しにきてって言ってみようか？

Ａ　児：（泣きながら）みんな、隠れてから探しにきてね

Ｂ　児：わかったよー！

（そこから気持ちも落ち着き、保育者と一緒に鬼をやりながら、かくれんぼを楽しむことができました）

ワ ー ク シ ー ト

■ 協議してみましょう

○　登所を不安に感じている子や気持ちに波がある子に関わるとき、大切にしていることは何ですか。
（個人思考）
（グループ・全体協議）
○　遊びのルールが曲げられない、納得がいかない時に、どのような配慮や工夫が必要だと思いますか。
（個人思考）
（グループ・全体協議）

「Aちゃんのかくれんぼ」

■ この園での取組

○　Ａちゃんは普段は元気だが、登所時に保護者から離れられないときもあり、気持ちに波がある。長時間親元から離れている寂しさもあるのだと保育者は思っていた。

○　Ａちゃんの気持ちに寄り添いながら関わることを心がけ、気持ちが落ち着くまで関わるようにしている。

○　友達との遊びに入った様子を見てそばを離れるが、一度覚えたルールを曲げることが出来ないＡちゃんに対し、納得いくように話をしながら、関わることで安定を図ったり、やることリストを作成したりした。

○　生活リズムは一人一人違うが、保護者と一緒に子どもの成長の共通理解を図るようにしている。

■ ワンポイント

□　子ども達の遊びについて、共通理解が図れるように環境設定や遊びの工夫について考えてみましょう。

□　保護者との受け渡しの際、どうしたら保護者と保育者のよりよい連携がとれるか考えてみましょう。

□　保育者間で情報交換しながら、子どもの状況把握をし、保育の改善につなげていきましょう。

あるある研修　「鬼ごっこ」

■ 主な内容

・朝の自由遊び
・年中児と保育者で鬼ごっこ
・遊びの途中で抜ける子がいる
　登園してきた仲良しの友だちを見つけ、「Ｂちゃんと遊ぶ」と抜ける。
　鬼が良かったが出来なかった。又は鬼になりたくなかったから「やっぱりやめる」と抜ける。
　遊びたい内容の鬼ごっこではなかった。

■ 幼児と保育者のようす

保育者：「鬼ごっこするひとこのゆびとまれ♪」
（子どもたちが集まってくる、鬼きめをする、その間に次々に登園してくる）
幼　児：「あ！Ｂちゃん来た！」
　　「やっぱり鬼ごっこやめてＢちゃんと遊ぶ」
保育者：「わかったよ。また遊びたくなったらおいでね」

～別の日～
（鬼きめをする、Ａ児が鬼に当たる）
Ａ　児：「やっぱりやらなーい」
保育者：「どうして？」
Ａ　児：「鬼やりたくないから」
保育者「わかったよ」
（別の鬼を決めて始める）

Ａ　児：「やっぱり鬼ごっこやる！」

保育者：「鬼ごっこするなら鬼になるかもしれないのはルールだよ」
　　「それでもいい？」

Ａ　児：「やっぱりいいや！やらない」

ワ ー ク シ ー ト

■ 協議してみましょう

○　子どもの思いも優先させたいが、ルールも守って欲しいのでどう対応するべきか
（個人思考）
（グループ・全体協議）
○　年齢によっての対応の違いをどうするか
（個人思考）
（グループ・全体協議）

「鬼ごっこ」

■ この園での取組

○　自分の思うようにならないと遊びの途中で抜けてしまうことが度々みられた。

○　最初は園児の思いを受け止めて対応したが、様子を見ていると自分の思いが中心で一緒に遊んでいる相手の思いを考えていない行動が多くなってきていたので、理由を聞いたり、遊ぶ前にルールを確認したりした。

○　鬼が嫌だったり、または鬼がやりたかったりなどの理由で、その遊びをやりたくないとなってしまったり、つまんないと言ったりする。
○　思い通りにはならないこともあるということもわかって欲しいので、（その時の状況もあるが）我慢して遊びに参加してもらうこともある。

■ ワンポイント

□　ルールを守ることを幼児同士で認識させたい。

□　鬼の役をすることの楽しさやルールを守って遊ぶことの大切さがわかるように環境の構成を行う。

あるある研修　「異年齢児との関わりが苦手」

■ 主な内容

・異年齢児との交流がうまくできない子がいる
・集団遊びやゲームを異年齢児で行うとき、消極的になってしまう子の気持ちを考える
・それぞれの事例から、年齢的な違いや発達の特徴等を見出して、その育ちに寄り添った関わり方を検討する

■ 幼児と保育者のようす

【０１２歳児】
・他のクラスと関わるときに配慮すること

【３歳児】
・他のクラスとの関わりに苦手意識がある子への援助の仕方

【４～５歳児】
・異年齢児の集団ゲームの場面で、消極的になってしまう子への援助の仕方

ワ ー ク シ ー ト

■ 協議してみましょう

○　各クラスの異年齢児の交流で配慮することは何ですか
（個人思考）
（グループ・全体協議）
○　クラスの違う保育者同士で、異年齢の関わりについて事例を交換しましょう
（個人思考）
（グループ・全体協議）

「異年齢児との関わりが苦手」

■ この園での取組

○　３４５歳児クラス合同でのコロコロドッジボールやじゃんけん列車などを行う際に、各クラス数名は参加を嫌がっていた。

○　他クラスとの散歩の際に、異年齢での手つなぎを促している。異年齢との関わりが苦手な５歳児や年上との関わりの経験不足で泣いてしまう３歳児などがいる。

○　集団ゲームに負けたくない気持ちから、参加を拒む５歳児。コロコロドッジボールでは、攻撃は出来るが、逃げる側だと参加拒否する。

○　慣れていない人との関わりが出来ない。

○　保育者は無理なく興味をもてる時に参加してほしいと思う反面で、負けたりすることにも柔軟に対応が出来るようになってほしいと願う気持ちから、参加を強要してしまっているのではないかと悩む

■ ワンポイント

□　担任だけでなく、朝の受け入れから、夕方の保育時間帯の様子でも関わりがもてるように検討してみる。